

銘柄分析レポート：光通信グループの有望企業

1 はじめに

投資家の間では、あまり話題になっていませんが、光通信（9435）の株価がここ10年で大幅に上昇しています。

その理由として、継続課金の「ストック利益」を重視するビジネスモデルの転換を成功しつつある点があげられます。

現に同社は、OA機器販売など販売時の売上高が圧倒的に大きい「一時金事業」、携帯電話販売のように一時金収入の方がストック収益よりも多い「低ストック事業」から、販売時は赤字が先行するものの販売後のストック利益が多い「高ストック事業」に軸足を移しています。

「高ストック事業」には、ウォーターサーバー、自社光サービス、ITソリューション、電力販売などが含まれており、光通信本体で手がけているケースもあれば、傘下の子会社を通じて展開しているケースもあります。

ここでの狙い目は、小型株が多く含まれている子会社です。光通信自体はすでに時価総額が1兆円を超えており、投資妙味があるとは言えないからです。今回の銘柄分析レポートでは、光通信グループの有望企業を取り上げます。

★光通信 株価チャート

